

技の守り人 匠会通信

越後与板打刃物匠会

No.36 2019/10/24

追悼 進取の気性で与板を牽引「川野 稔」さん



また一つ与板打刃物の巨星が 天に召されていった。8月初旬、誰も予想できなかった稔さんの旅立ちだった。

かえすがえすも残念でならない。

「河政さん」は与板の中で知らない者はないというほどの人脈の広い鍛冶屋さんだった。まちなかに「刃物工芸館」を開館して与板の打刃物を「見えるかたち」にし、鍛冶職人と道具の使い手が直接交流できる画期的な展示場にした初めての鍛冶屋でもあった。そのひたむきで信念を通す人柄は刃物ファンでなくてもたくさんの人を惹きつけていた。

どんな刃物でも注文があればチャレンジするその好奇心と器用さ。兄 稔さんの仕事ぶりを引き継いで弟である正さんの新たなる挑戦が始まっている。

わたしたちの歩みはまだ途上である。会員の数は減ったが、若いチャレンジャー島田クンも頑張っていることはわたしたちの希望だ。天から見守っているであろう川野 稔さんに叱咤激励されながら、私たちが歩みを止めず前を向いて進もうではないか。

小学校4年生、ことしも真剣に鍛冶体験授業！

毎年4学年に学習する体験授業として位置づいた「打刃物体験」。今回は8年目を迎え、9月27日に開催されました。

匠会の会員の減少により、こうした体験授業も実施が危ぶまれましたが、工房「あつたか」さんから渡辺さん佐藤さんの2名のメンバーが指導に加わって下さり、そこに工芸士の中野茂さんと、成長著し

い島田クンが鍛造の指導に回ることで何とか無事に授業を終えることができました。皆さまご苦勞様でした！子供たちも、初めて手にする重たい金槌にとまどいながらも、初めはこわごわだったのが、だんだん調子も出てきて、最後は「今日のボクの作った小刀はいつできてくるの？」と目を輝かせるようになりました。郷土の伝統産業を学ぶ大事な機会です。可能な限り続けていきたい授業だと感じます。



小刀を使ってえんぴつを削る。「もっともっと削りたいな。」

現代っ子にとって えんぴつ削りは新鮮な体験なのだ。

令和元年の鍛冶体験工房 いよいよ終盤へ！

三年目の鍛冶体験工房。開館日を10回に修正したところが、申し込みゼロの日と巨大台風の来襲の日と二回の中止を余儀なくされてしまいました。おまけに切断機が動かなくなったりのトラブルも。

切断機は鍛冶衆メンバー水野さんの持っていたものを運んでいただくことで、ようやく目出度く解決。よかった！



そして、次回26日の工房には、初めて外国からのお客さんが来場の予定だ。英文での申し込みメールにあわてる事務局。どうやら東北地方を旅行中のカップルらしい。フランスはパリ市から来日中のお二人、日本の伝統工芸体験にチャレンジする姿勢には、私たちが学ぶべき点が大いにある。

